

長期につづいたサンフランシスコの大型データが昨年末ごろから少し減衰傾向が出てきて今年になって急な減衰になって来ています。

サンフランシスコの大型データは約3年前から上昇してきて、上下を繰り返しながら2022年1月と3月に2度、急な減衰をしました。しかしそのときには完全な収束まで至らず大地震も発生しませんでした。

今回は3度目の急な減衰になりますが まず真っ赤な(強い)データが減衰してきており、緑の(弱い)データも少し遅れて減衰してきています。ちょうど明日1月7日は月齢15の満月で、いわゆる満月トリガーにかかりますが、このタイミングでいままで3年間続いたサンフランシスコの大型データが一気に減衰した場合、サンフランシスコ周辺からカリフォルニア等でM6超の大型地震の可能性が高いと思われます。

広いカリフォルニアに観測点がたった1つなので精度は悪いのですが現時点では、次のように予想します。

震源：サンフランシスコ、カリフォルニア周辺

地震の規模：M6超～M7クラス

発震日：1月7日から約1週間程度

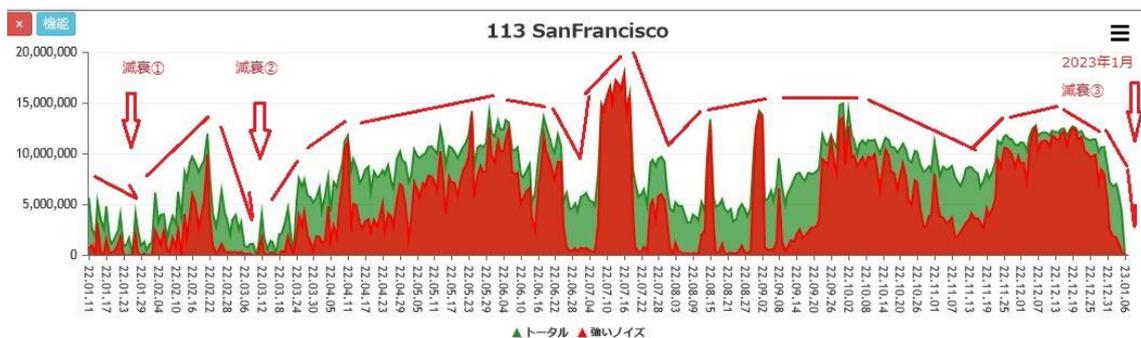
北米の太平洋側の方がたには十分な注意をお願いします。

以下、サンフランシスコのデータです。

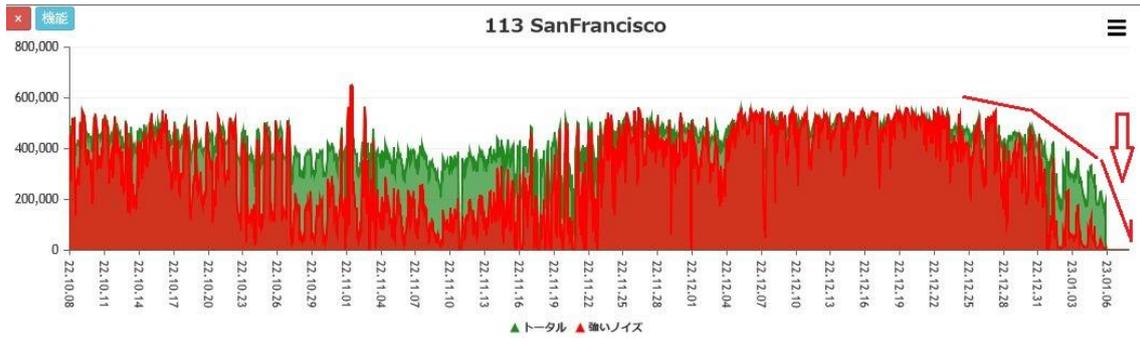
サンフランシスコ 1080日(3年)間データ(日ごと)



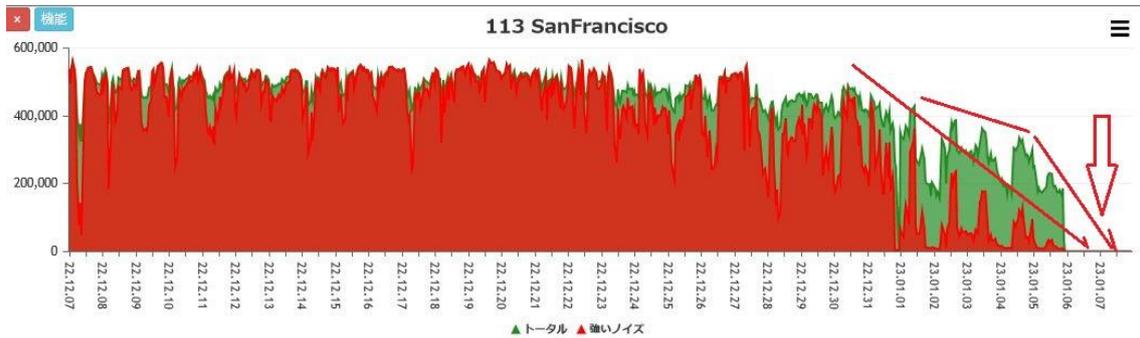
サンフランシスコ 365日(1年)間データ(日ごと)



サンフランシスコ 90日間データ>年末から急な減衰



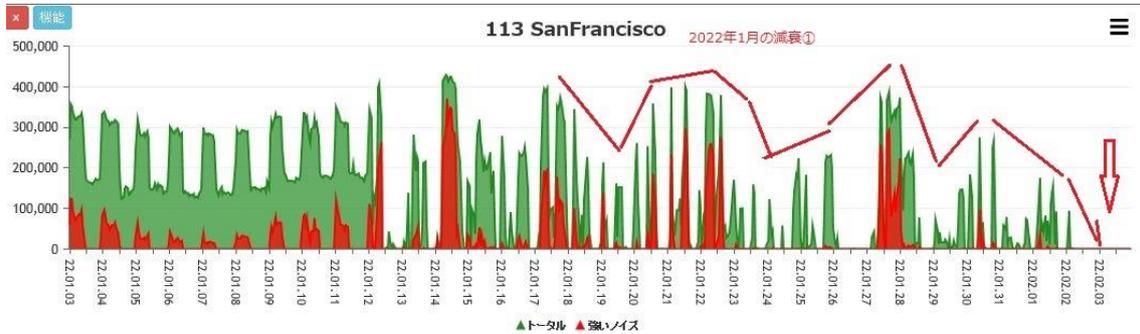
サンフランシスコ 30日間データ>真っ赤な（強い）データが減衰して緑の（弱い）データも少し遅れて減衰してきている。



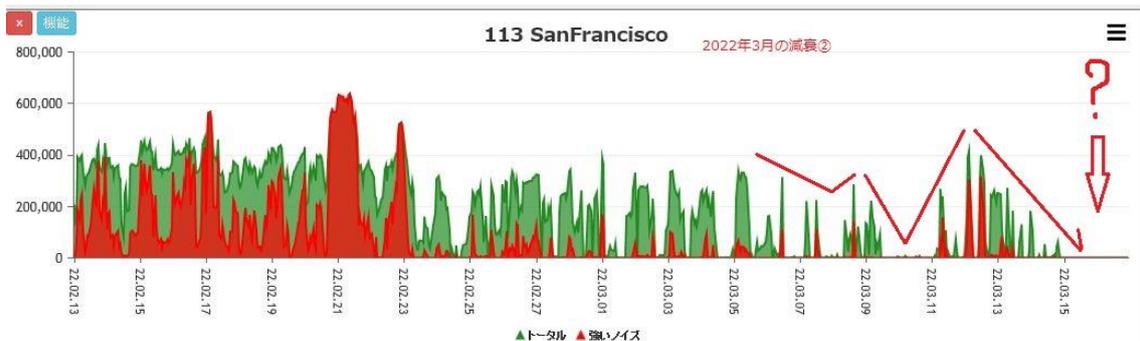
~~~~参考：2022年1月と3月の減衰のデータ~~~~

この時は2度とも発震はありませんでした。

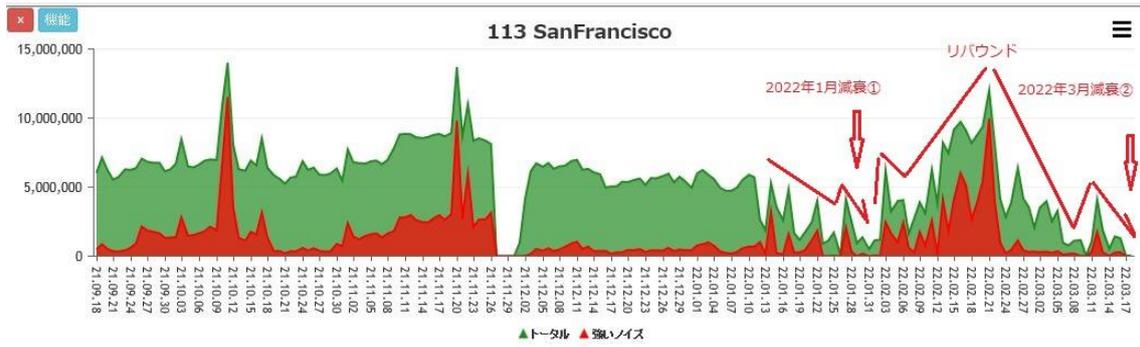
2022年1月（2月2日）30日間データ



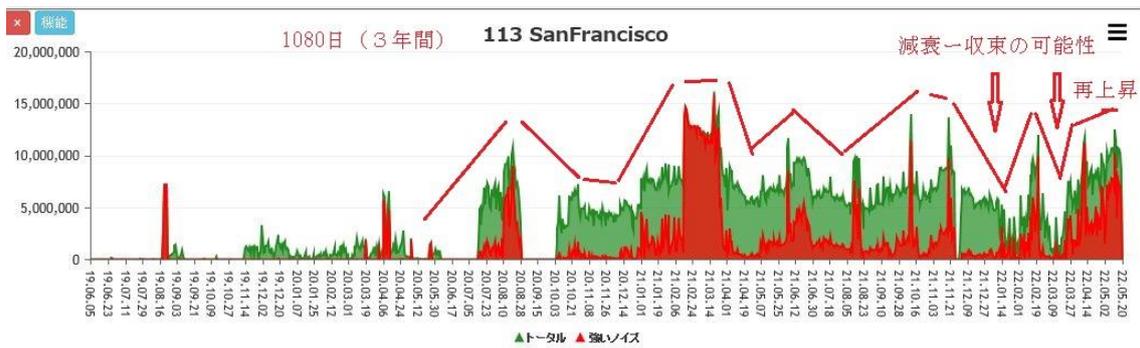
2022年3月（3月15日）30日間データ



2022年3月までの180日間（日ごと）データ



その後データは再上昇しています。



位置関係

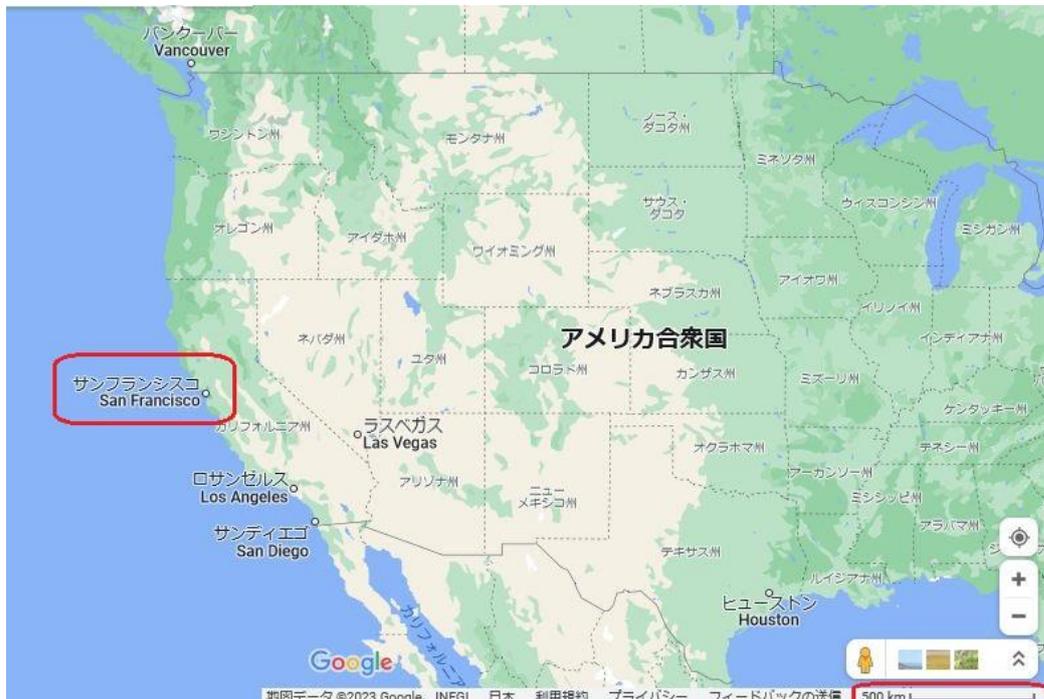


表 1.1 推定損害額からみたカリフォルニア州における主な地震  
出典：米国地質調査所ホームページ

| 年    | 地震名         |    | マグニチュード | 推定損害額<br>(単位:百万ドル) |
|------|-------------|----|---------|--------------------|
| 1906 | サンフランシスコ    | 地震 | 7.8     | 524                |
| 1933 | ロングビーチ      | 地震 | 6.4     | 40                 |
| 1952 | カーン郡        | 地震 | 7.3     | 60                 |
| 1971 | サンフェルナンド    | 地震 | 6.6     | 505                |
| 1979 | インペリアルバレー   | 地震 | 6.5     | 30                 |
| 1983 | コーリング       | 地震 | 6.5     | 10                 |
| 1987 | ウィッチャー      | 地震 | 5.9     | 358                |
| 1989 | ロマ・プリエータ    | 地震 | 6.9     | 6,000              |
| 1992 | ケープ・メンドチノ   | 地震 | 7.2     | 66                 |
| 1992 | ユカバレー/ランダース | 地震 | 7.3     | 92                 |
| 1994 | ノースリッジ      | 地震 | 6.7     | 13,000~22,000      |

サンアンドレアス断層

